

# 駐日エストニア共和国特命全権大使 来町！

## ～橋本町長及び町議会との懇談と自動運転バス試乗等を行いました～



▲懇談会で挨拶をするヴァイノ レイナルト特命全権大使



▲自動運転バス試乗の様子（左から佐治社長、橋本町長、レイナルト特命全権大使、アイト商務官、倉持議長）

茨城県境町では、2020年11月に自治体としては全国初の自動運転バスの公道での定常運行を開始し、本年11月に運行開始から無事故で2年が経過するなど、公共交通の充実を図っている他、隈研吾氏設計の施設を全国市町村最多の6施設を整備（令和4年度中に7施設目が完成予定）し、交流人口の拡大を図るなど、令和3年度には茨城県で7年連続1位（関東では5年連続1位）となる48億円のふるさと納税寄付金や国の地方創生関係交付金等を活用しながら、スポーツを核としたまちづくりなども含め、地方創生に関する様々な取り組みを実施しております。

この度、1月17日に、デジタル先進国である駐日エストニア共和国のヴァイノ レイナルト特命全権大使が来町され、橋本町長及び町議会等とデジタルに関する懇談や、自動運転バスの試乗及び自動運転遠隔監視センター等を視察されました。

### 【レイナルト特命全権大使】

- エストニアは人口約130万人の小さな国。人口も少なく、資源も限られており、政府の予算も少ないため、1990年代後半のデジタル革命の時代から、行政や民間企業等がデジタル技術を活用し、様々な効率を高めてきた。
- エストニアの行政サービスは、人生の一大事である結婚及び離婚の手続きはあえてオンラインではなく窓口での手続きが必要で、それ以外は全てオンラインで手続き可能。
- e-ガバメント（電子政府）化していくには、住民のマインドセットが重要。例えば、行政サービスについては、オンラインサービスを活用いただくことで、窓口に来ていただく必要がなくなり、無料で365日、24時間利用可能になりますといった、利益の部分を住民にアピールすることで、マインドを変えていくということなど。
- エストニアはやりながら学んでいく（run by doing）、これまで試行錯誤しながらe-ガバメントを築き上げ、ユーザー側を巻き込んで多数の実験をしてきたという経緯がある。完璧なものでないものを世に出して改善していく、ベータバージョン（試験的）のものから出していく。

- 具体的には、サービスを提供する側、受ける側（ユーザー側）の対話でサービスに不便があったりした場合、すぐに受ける側（ユーザー側）は文句や苦情を言い、プロダクター（サービスを提供する側）が答えて商品を完成形へと改善していく。
- 日本に当てはめると、会社がそこまでのリスクを負って実験的な商品を世に送り出せない状況がある。完璧でない商品を世に送り出すことは、会社がブランドや評判にダメージを負うこと恐れて世に送ることがなかなかできない。
- 私が見ている限り、日本ではサービスを世に出す時は、完璧にしてから商品を出す。
- 日本もエストニアも目指すところや方向性は同じ、アプローチが異なり、日本は、石橋を叩いて完璧にしてから世に送り出し、エストニアは、不完全なものをみんなと一緒に改善していく。
- 個人的には日本のやり方にも価値があると考え、どちらかが優れているということではなくお互いを尊重しあうことが重要。

### 【BOLDLY 佐治社長】

- 境町民が自動運転と共存できる文化ができているので、MiCa（ミカ）（エストニア共和国オーブテック社が開発した新型自動運転車両）を走らせる上で、今後境町で実証実験を行いたい。
- 境町は、デジタル田園都市国家構想交付金事業に採択されているので、電子政府の面でもマイナンバーカードを活用した連携ができないかと考えている。
- 今後、実際にエストニアを訪問して、境町と何を連携していけるのか、連携の仕方を含め視察したい。

### 【橋本町長】

- 近い将来、境町をフランスの ARMA（アルマ）、エストニアの MiCa（ミカ）、そして今年中に日本の車も走るような自動運転のショーケースにしていく。
- 境町の自動運転バス運行の取組みは、交通弱者の一助になるひとつの例になった。
- 日本のみならず、世界の中でも自動運転を常時運転しているところは少なく、ドイツといった海外からも視察が来ている。
- 境町のマイナンバーカードの申請数は、茨城県内で下から5番目だったが、3・4ヶ月で上から4番目と普及に向けての取組みを始めてから、約30%伸びた。
- エストニアはやりながら改善して商品を作り上げていくが、境町も似ている。境町は、やりながら改善していき、議会、住民が協力し合った結果、自動運転バスの運行に関する日本の法律までも変えている。
- エストニアには、スタートアップも多い、日本も学ぶ所がたくさんある。今後も、デジタル先進国であるエストニアと情報共有していきたい。
- 境町がハードルを超えていき、他の自治体のモデルになればいいなと考えている。

町としては今後も、自動運転バスやドローン配送等、デジタルを活用したまちづくりを進め、更なる住民サービスの向上を目指しチャレンジしてまいります。

---

**【概要】**

▼来町日 令和5年1月17日（火）

▼内 容 橋本町長及び町議会との懇談（境町役場 4階大会議室）  
自動運転バス試乗及び自動運転遠隔監視センター視察（株式会社セネック 茨城本社）  
S-Gallery 肅祭竇美術館視察（※世界のこどもたちの絵画展-同時開催-遠藤彰子展開催中）

▼主な出席者 境町長 橋本 正裕

境町議会議員

駐日エストニア共和国特命全権大使 ヴァイノ レイナルト 様

駐日エストニア共和国大使館 商務官 オリバー アイト 様

BOLDLY 株式会社 代表取締役社長 兼 CEO 佐治 友基 様

株式会社セネック 取締役副社長 和歌 良幸 様

---

**【本件に関するお問い合わせ先】**

茨城県猿島郡境町 3 9 1 番地 1 境町役場 企画部 地方創生課

電話：0280-81-1309 FAX：0280-86-7521

E-mail：kikakukeiei@town.ibaraki-sakai.lg.jp